



第7号

## 特集 発達障害 就学編

前号では未就学児の発達障害について特集しました。今号では小学生以上の子どもたちをサポートしている方々や、学校現場などを取材してきました。感情や感覚などの発達の仕方は人それぞれ。中にはとっても独創的な子や、のんびりした子もいるのです。

## ええやんピープル

Vol.7

誰かのために 何かのために活動している人を紹介します。



# 一緒にいるだけでいい。 ホタルの群れのような居場所を作りたいですね。

大学卒業後、京都で学習塾に就職。そこで学校には行かない、いわゆる「不登校児」と出会いました。その子たちは学校には行きませんが塾には来るんです。そしてなぜか私のところに話をしに来てくれました。しかし、塾ではなかなか彼らにゆつくり付き合うことができない。そこで、彼らのニーズに応える場づくりに興味を持つようになり、大学院へ進学しました。

大学院在学中に大阪府茨木市で「かすたネット」というフリースペースを開設しました。当初は、みんなで活動できるゲームやワークを検討していましたが、いざ開設してみると、最初の6ヶ月は誰も集まらないかつたんです。その時に発達障害児なので来づらい。自分でゆるやかな場所にしてほしい」と教えられ、何もないことも大切なんだと気づいたんです。そこから、活動内容は何もなく各自が自由に過ごすというスタイルにし、だんだんと人が来てくれるようになりました。そこから、活動内容は自分自身が大学に進学した頃に不適応気味でしたが、サークルの部室

昨年4月に山口に来てすぐに準備を始め、9月から「家や学校以外で自由に過ごせる場所を作ろう!」と、「ほたるネット」というフリースペースを開設。このスペースでは特に目的もなく各自が好きなことをしているだけですが、子どもたちには何か居心地がいいようです。家で一人で過ごすのと同じことをしていても、違うのはそこに誰かが一緒にいるということ。それがポイントなんだと話す押江さんに、フリースペースへの思いをお聞きしました。

## フリースペース開設のきっかけ

「援助」ではなく、  
お互いに支えあえる関係に

ほたるネットを支える学生スタッフ。左から三浦さん、大塚さん、松田さん、富永さん、太刀掛さん。

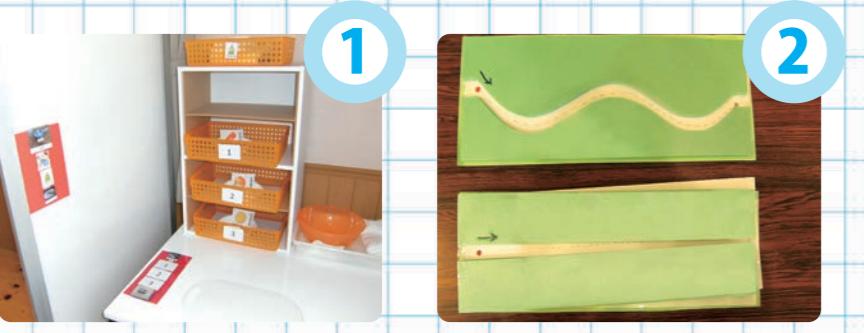
私たちが「援助をしたい」と無理に気負っていることがあります。利用者もスタッフもみんなが「自分らしく」いることで、お互いにスタッフの側も何か癒された感覚になっています。うちはうまくいかないようです。活動を通して、支えあう場所になってきているの

大阪のフリースペースでは「ここは俺の唯一の居場所だ」と言つてくれた子がいました。いろいろな地域にこのような場が作れたらいいなあと思っています。ほたるネットは、大学生・院生のボランティアの協力で運営でています。私は一人ではできなかつたことです。私このような場に専門家だけではなくいろいろな人が関わり、地域にお互いに支えあえる関係が広がつていくことで、元気になる人が増えていけばいいなど願っています。

にはなんとも言えない居心地のよさを感じました。何をするでもなく部室に行つてはそれぞれが好きになります。イメージはその時の「部室」で、それがこの場の原点のような気がします。「不登校」になると極端に人と接する機会が減りますが、学校以外でも人と過ごせる時間がもつと他にもあります。もよいんじやないかと思います。

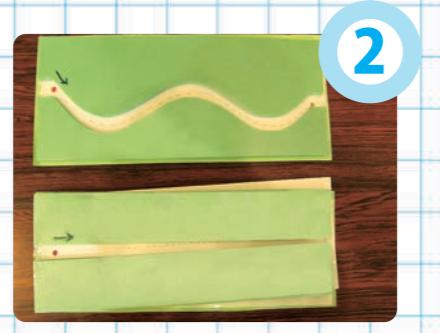
# 困り感を和らげる 生活・学習 支援ツール

目に見えにくい障害のある子どもたちには、できることを伸ばしながら、できないことをサポートし、失敗や注意も肯定的に伝えてあげることが大切です。ここで紹介するツールは、足の不自由な人なら杖や車いすを使う、目の悪い人ならメガネやコンタクトを使うなど一緒です。杖の長さが間違っていると、機能せずに立ちません。だからこそ、それぞれの特性に合わせたツールを作ります。この作業は日々反省と調整の繰り返しですが、失敗をなるべくさせずに、ほめて自信をつけさせるために必要なものです。



ワークシステム

料理・ケーキ作りも自分で見て一つひとつ手順を確認しながら行う。また、終わりをはっきりさせることができ大事。左にある壁は音に敏感な子どもたちの安心できる空間を作るため。



ヘビの線引き

点線をなぞる練習。まわりがスポンジでできているのはみ出さず、終わりがはつきりしている。成功で終わらせてあげる工夫がなされている。



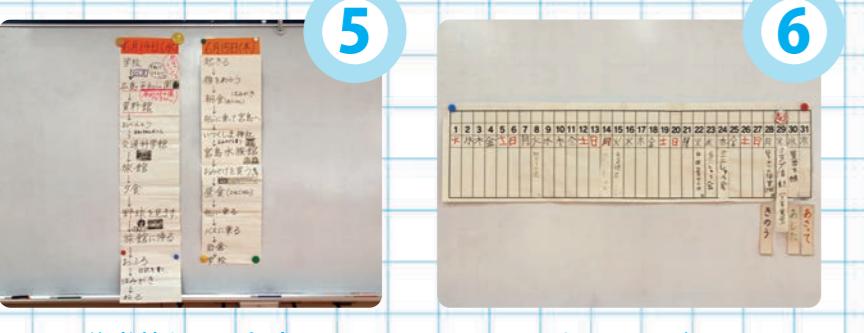
数の位を理解するための教材

おもちゃのお金を使うことで10や100のまとまりがわかりやすくなる。お金の計算もできるようになり、一石二鳥な教材。



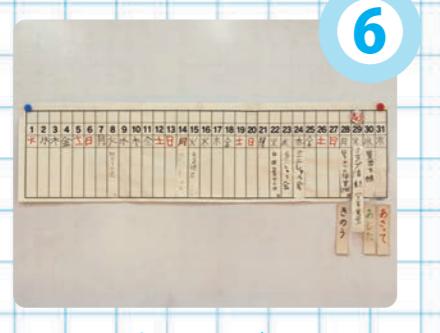
左右の感覚を養う教材

「となり」はわかるのに「左右」の感覚がわかりにくい子も。コインを入れるなど、いろいろな教材と組み合わせて使う。文字が青いのは、青色が好きな男の子のために作られたから。



修学旅行の日程表

日常まったく違う環境になるので、2日間の行程を写真入りで作成。全体の見通しがもてる安心するため。旅行前に教室に貼りだしたら、当日には行程を覚えてしまったそう。



横長カレンダー

普通のカレンダーは7日で区切るが、それが理解しにくい。1ヶ月という長いスパンの見通しをもたせると安心する。昨日、明日、あさっての概念もあやふやなことがあるので、自分たちで行事を書き込み、「あした」などと書かれた札を使って、繰り返し学習する。

※取材協力 「あくしゅ」写真①②提供

・松本聰子先生(白石小学校 特別支援学級担当)写真③~⑥

## 子どもたちの現場から 支援教育がめざす未来

宮本 剛さん /みやもとたけし

山口県立山口総合支援学校 教務部部長 小学部教諭

★Facebookに「特別支援教育こみゆ山口~Living with Special Needs~」を立ち上げ、【自閉症のある子どもたちの教育と家族支援】をテーマに奮闘中! www.facebook.com/specialneedscommunity



「～読みない～」こと「書けない～」こと、は、ありえないこと。そんな急げものは、うなずき来れない。毎日の授業の中で、繰り返しそんなメッセージを送られていた。親にも理解されない。自分が悪いから、急げもだから文字が覚えられないのだ。勉強ができないのだ。自分が悪いから。自分がためだから。深く、強く思いを刻んでいくことになる。(～席は一番後ろの左はしに固定された。みんなが席替えるときも、自分の席だけは変わることがなかった。「お前は～」においてはいけない、「みんなのじやまになる」その席は、いつも自分にそつう言っていた～)

[http://sky.geocities.jp/dyslexia\\_tora/index.html](http://sky.geocities.jp/dyslexia_tora/index.html)

想像してみるとが必要なのです。自分がこのような状況にあったとしたら、どういふ心持ちだろうか。心から持てるのだろうか。果たして自分の未来に対して夢や希望を持つことができるだろうか。子どもたちにとっては非常に大きな存在である家庭・学校、そして友だち。そのどこからもはじめられてしまった時の自分は、果たしてどのような時間を過ごしているのだろうか。

私が現任校で自閉症のある子どもたちの教育環境を整えようと思ったのは、彼らの自傷行為や行動上の多くの問題は、実は周囲の「知らない」が故の「無理解」が原因なのだと学びをしたからです。丁寧に環境を整え、適切なアプローチを段階的に継続的に行なっていくことで、彼らの状況は目に見て変わっていきました。

今日も階段を降りて教室棟に向かいます。そうすると、やつくるやつくる、かわいを求めて、あ

の手の手を駆使しながらカードを渡す子、手を引

引張る子、三輪車ごと身体にぶつかってくる子、

やりと視線を向けて笑顔で逃げ出す子、元気よく

挨拶をする子と、皆色々です。でも、共通してい

るのは、なんとも言えない素晴らしい笑顔とともに

ある「あなただと遊びたい!」という気持ち。そこには

この障害の日本名である「自閉」という漢字はあまり

よりもすぐわからず、文字で書くのが有名

ブン・スルバーグなど有名

メッセージだと私は受け止めています。

そつ「理解こそが支援の第一歩」なのです。

※「ディスクレッシング」…学習障害の一類で、知的能力及び一般的な理解能力など特に異常がないにもかかわらず、文章の読み書きが不得意で、読むのが困難な障害のこと。トム・クルーズやスティーブン・スルバーグなど有名

人物です。

（中1・男子、中2・女子）

# ちょっと長めの、座談会。

前号にひきづき、発達障害をテーマに作ってきたええやん新聞第7号。学校に通うなかで直面する問題、成長とともに変化する困り感、学校側の対応など、調べれば調べるほど、今まで知らなかったことがたくさんありました。自分には関係ないとは決して言い切れない、デリケートなテーマに向き合ってきたこの一年。わたしたち市民広報記者も、少しは成長できたかな?

と、いうわけで。  
記者のみなさん、今年度一年、ふりかえっていかがでしたか~?  
突然ですが、1月中旬に行われた座談会の模様を柿田がお伝えします!

市民広報記者は、30~40代の子育て中の母たち。  
それぞれの記者歴は 丸崎→5カ月 藤山→4年 河村→5カ月 柿田→4年 です。

丸)わたしは(ええやん新聞に参加したのが)、11月ごろとかからですかね~。なんか、いまごろエンジンかかって。

1月中旬現在。それぞれが担当する原稿がそろいはじめています。  
丸崎さんは、7号から加わった新メンバー。かなりできる人らしいと、もっぱらのウワサです。

藤)すごいじめよね。

丸)あ、そんな感じ?

藤)じめというか、きっちりしてる。パソコンで取材メモとか作ってきてるし。

丸)いや、字が汚いから…。

全員)そうじやなくて!

丸)だから字が…。

柿)ふつうは作ってこないって。

丸)半年しかやってないから、かなり新鮮で。なにやっていいかわかんないから、やってしまうのかな~。

河)今日はなんかすべて丸崎さんに、みたいな感じになったけど大丈夫?

一週間後の会議までにそろえてくる原稿がいろいろあったのですが、「じゃ、丸崎さんかな~」って感じで、たくさん宿題が出来てしまったのです。

丸)試されてる? わたし…。でも、今度の取材、一緒に行きますって言えなかったんですよ。さすがに。

藤)いいよー、わたし行ってくるから。

追加の取材も入りました。一週間でアボとり、取材、原稿作成、ここはベテラン藤山さんにおまかせということで…。

丸)ほんとに知らないことばかりで。進め方も、内容も。びっくりだった。

藤)どんどん変わっていくしね。

丸)そうそう。

藤)調べながら記事書くから、なんか1個わかると次にわからないこととか出てきて、テーマにあわなくなってきたたり。

柿)ずれてくるよね、だんだん。

実は今日の会議で、大きなタイトルにと考えてきたテーマと内容とのズレを軌道修正したのでした。

では、今号で印象に残ったこと!

丸)そうですね。やっぱり、小学校とか大学とかふだん行くことないから新鮮で。今の学校が昔と全然違ってびっくりしたし。取材じゃないと行けないようなところもあつた。

藤)今回はさばらんの市民広報記者って名前があるからちゃんと入れるけど。

丸)でも行ってみたら、敷居は感じなかったっていうのが。だって保護者って立場で、なかなか校長先生とお話しすることなんてないよね?

今回、手分けして市内の通級指導教室のある小学校へお話を聞きに行きました。校長先生が対応してくれる学校もあったんです。お忙しい中、みなさまありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

藤)市民広報記者という立場がないと行けないところもあるし、でも行くと、なんというか知りたいという人に対して親切で、あと、学校が子どもに対して一生懸命ってことがわかって。

河)こういうとき、冴えたこと言えないんだけど…。急に感想とか求められると…、ごによごによ。

なんて言ってるけど、会議中の的確なまとめにはいつもほれぼれさせられます。そんな河村さんも、7号からのメンバーです。

藤)じゃまあ、長年やって、どうでしたか?

藤山さんと柿田は、創刊号から関わってきました。「ええやん新聞」って名前に決まるまで、みんないろいろ悩んだんだよなあ…、なんて思い出にひたりつつ。

柿)あー、そうですね、いろいろありましたねー。とくに今年は、わたしたち、ここまでできるんだっていうことに感動しました。

河)内容が、いままでは自分とは遠い感じがしてたことだから、は~って。ちょっと重い、よね?

藤)重いというか、どこまで聞いていいのか、書いていいのか、判断が難しかったかな。問題をオープンにしたいのかオフレコなのかなっていう。それだけデリケートな問題でもあるし。

河)うちの子だったらどうするんじゃろうかとか、置き換えて考えると重かった。そういうの思うと、なんかいろいろ。

藤)わたしは、なんというか、あー自分の子がもしうやったとしても、頼れる人がいるんだなーって。調べたら調べただけサポートしてくれるところが出てくるし、これだけの人がいてくれるって。

河)ほんと小学校は手厚いね。

柿)安心にはなったかな。

藤)なんというんやろ、自分の気持ちがマイナスになると、どんどんそっちに傾くから。同じことを調べてみてても、河村さんは重いと思うし、わたしは調べてみて楽になったというか。感じ方っていろいろ。

河)とにかく、みんなが力を合わせてものをつくるのは、大変なんだなって思いました!

うんうん、そうだね。

あとひといき、がんばろう~。

**市民広報記者編集後記** 市民広報記者とNPOや市民活動に関心のある市民を募集し、誰かのために何かのために活動している人たちを取りました。

藤山 前号、今号とやりがいのあるテーマに関わることができました。今は充実した気持ちです。現場の皆さんは本当に前向きで、だから私も前向きな気持ちで記事を作ることができました。紙面からそういう空気を感じてもらいたいな。

丸崎 限られた時間・文字数の制約の中で伝えるという作業はとても難しいことです。取材先で快く協力してくださった方々の思いや情報が、ひとりでも多くの方に伝われば嬉しいな。

河村 いろんな子どもがいて、みんながんばっている!ということを改めて実感。「知ってほしい」という声を伝えることで、また一步住みやすい山口に進んでいくたいなと願っています。

柿 お互いを思いやる気持ち。理解しようとすること。どんなことにも共通する、大切なことなどなどあと、改めて思いました。大事に大事に、生きていこう。

さぼらん・田中 1年にわたり特集を組んだ「発達障害」。前編では大きな反響をいただきました!(^.^)

これからもよろしくお願ひいたします♪

## 林 隆 先生の

# 自己肯定感を育もう

後編

## Profile

はやし たかし / 医学博士。山口県における発達障害診断の第一人者。NPO法人山口ウッドムーンネットワーク理事長。2012年3月まで山口県立大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻長。2012年11月に医療法人テレサ会西川医院発達診療部長・発達障害研究センター長に就任。著書に「小児科医と共に提案! 教室でする発達障害への教育コーチ」TOSS長州教育サークル共著(明治図書)など。

## 認めて諦める

生きていくのに必要なことは、読み書き・そろばんばかりではありません!

読み書き・そろばんが出来ないといって、頭ごなしに叱ることは教育でもなければ支援でもありません。

相手の特性を踏まえた指導を行って子ども達が結果を出せるのが教育のプロであり、相手の特性に応じた具体的な援助行動が出来て利用者が満足出来るのが支援のプロなので

否定的に見られる、お子さんは自分の値打ちを見失います。今あなたが子どもに対して求めていることは、本当にお子さんにとって必要なことでしょうか? もう一度考えてみて下さい。

諦めるとは「ものごとを途中で投げ出す」ことではなくて、「ものごとの本質を見極める」という仮説の言葉です。出来ること出来ないことを見極めて、今出来ないことはとりあえず先送りしましよう。いつかはきっと出来る時が来るを考えましょう。周囲の大人が今出来ないことを諦める(子どもの特徴を見極めることで、お子さんは自分の人生を投げ出さずに済み人間としての尊厳も失わなくて済むのです。

お子さんが一生懸命生きている一日一日が穏やかに過ごせるために、今何が出来るか出来ないかを見極めましょう。

## 協力団体紹介

取材に協力してくださった団体の情報をご紹介いたします。  
ありがとうございました!

### ●ゆずの会

子どもの発達に悩んだり、育て方を考えている親同士がお互いの経験を話したり、情報交換をする中から子育ての工夫や支援のあり方を考えます。毎月1回程度、定例会を開催しています。どなたでも参加できます。

日時: 毎月1回(第3月曜日) 午前10時~12時  
場所: 山口市湯田地域交流センター(旧湯田公民館)  
URL: <http://conconpro.com/yuzu/index.html>  
会費: 100円(茶菓子代)

### ●山口自閉症研修協議会あくしゅ

自閉症の人にかかる人の理解と支援を広めることを目的に活動をしています。家族や支援者への研修の企画、自閉症の子どもを育てる家族が中心になり余暇くらぶくれよんの運営をしてきました。

連絡: [akushu\\_nokai@yahoo.co.jp](mailto:akushu_nokai@yahoo.co.jp)

## さぼらんてからのメッセージ



発行元  
山口市市民活動支援センター さぼらんて

- 住所: 〒753-0047 山口市道場門前1-2-19
- TEL: 083-901-1166
- FAX: 083-901-1165
- Mail: [saporant@cable.ne.jp](mailto:saporant@cable.ne.jp)
- HP: <http://www.saporant.jp>



↑ Mail

山口市がもっと元気になるように市民活動参加のきっかけづくりや、市民活動団体がもっと元気になるためのお手伝いをしている場所が「山口市市民活動支援センターさぼらんて」です。誰もが心豊かに暮らせるまち山口をめざして自ら気づき、考え、行動している「今」を頑張っている市民活動団体の方や、「今から」活動したい市民のみなさんを私たちは応援しています。

この「ええやん新聞」は住みよいまちづくりに向けて、身近なところから関心をもち、行動していく市民が増えることを目的としており、思いをもつ市民による市民広報記者が主体となって編集発行したものです。現在子育中の市民4名が「広報記者」となり活躍中です。(年2回発行)

## 問題に答えて お菓子セットをもらおう!

スワンベーカリー山口店(社会福祉法人 ほおの木会 鳴滝園)より提供

5名様に  
プレゼント

問題  
「困り感を和らげる生活・学習支援ツール」で、数の位を理解するために使う教材はなんでしょう?



- 締切は2013年5月15日(当日消印有効)です。なお、ご記入をいただいた個人情報は、当選ハガキをお届けするために利用し、その目的以外での利用はいたしません。当選発表は、賞品発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先は、〒753-0047 山口市道場門前1-2-19 山口市市民活動支援センターさぼらんて「ええやん新聞プレゼント」係。
- メールは、[saporant@cable.ne.jp](mailto:saporant@cable.ne.jp)(上記QRコードで読み可・HPから送信可)タイトルに「ええやんプレゼント」と明記。
- もっともっと暮らしやすい社会に向けて、成長し、発信し続ける「ええやん新聞」にぜひ感想をお待ちしております。

デザイン・イラスト・まんが / 山寺わかな